



YAMAHA

防曇フィルム 取付・取扱説明書

適応機種

「施工前の確認」をご確認ください

はじめに

販売店様へ

本製品の商品説明および取扱上の注意点を、お客様に充分ご説明いただくようお願い申し上げます。

本書および本品の取り付けに際して取り外した部品は、必ずお客様にお渡しください。

本書では正しい取り付け、取り扱いに関する事項を下記のシンボルマークで表示しています。

注意 取扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要点 正しい取扱方法や、作業上のポイントを示してあります。

構成部品

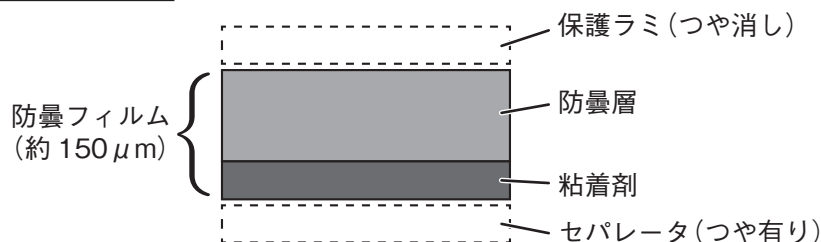
No.	品名	部品番号	数量	備考
①	防曇フィルム	QT8-YSK-F00-001	1	300 × 3,100mm ※

※フィルムは、貼り付けするフィルム以外にパッチテストなどに使用することがあります。

取扱上のご注意

- フィルムは購入後 1 年以内にご使用ください。
- フィルムは船内側に貼り付けてください。
- 表面に凹凸のある被着体（樹脂ウインドなど）への施工には適していません。
- スライド窓など擦れる場所への施工はしないでください。表面に傷が入り、視認性が悪くなります。
- 重ね貼りはしないでください。
- フィルムが厚いため、フィルム自体は伸縮をしません。3次曲面に貼り付ける場合は、施工前に貼り付け可能な場所を確認をしてください。
- ガラス本体の品質劣化などの原因により、フィルムを貼ることによって外の景色が波打つように見える現象が発生する場合があります。
- フィルムの許容範囲を超えると結露します。その場合は柔らかい布（マイクロファイバークロスなど）で軽く拭き取ると、防曇効果が復帰する場合があります。
- 汚れを落とす場合は、フィルムが乾いた状態の時に柔らかい布（マイクロファイバークロスなど）を使用し、中性洗剤入りの水で軽く拭き取るようにしてください。
- 年数が経つと紫外線により黄変・収縮が発生します。視認性が悪くなった場合は早目の貼り換えをお勧めします。
- フィルムを保管する場合は、冷暗場所に保管するようにしてください。
- ロール保管をする場合は、φ150mm以上の芯材に巻いてください。

フィルムの構成



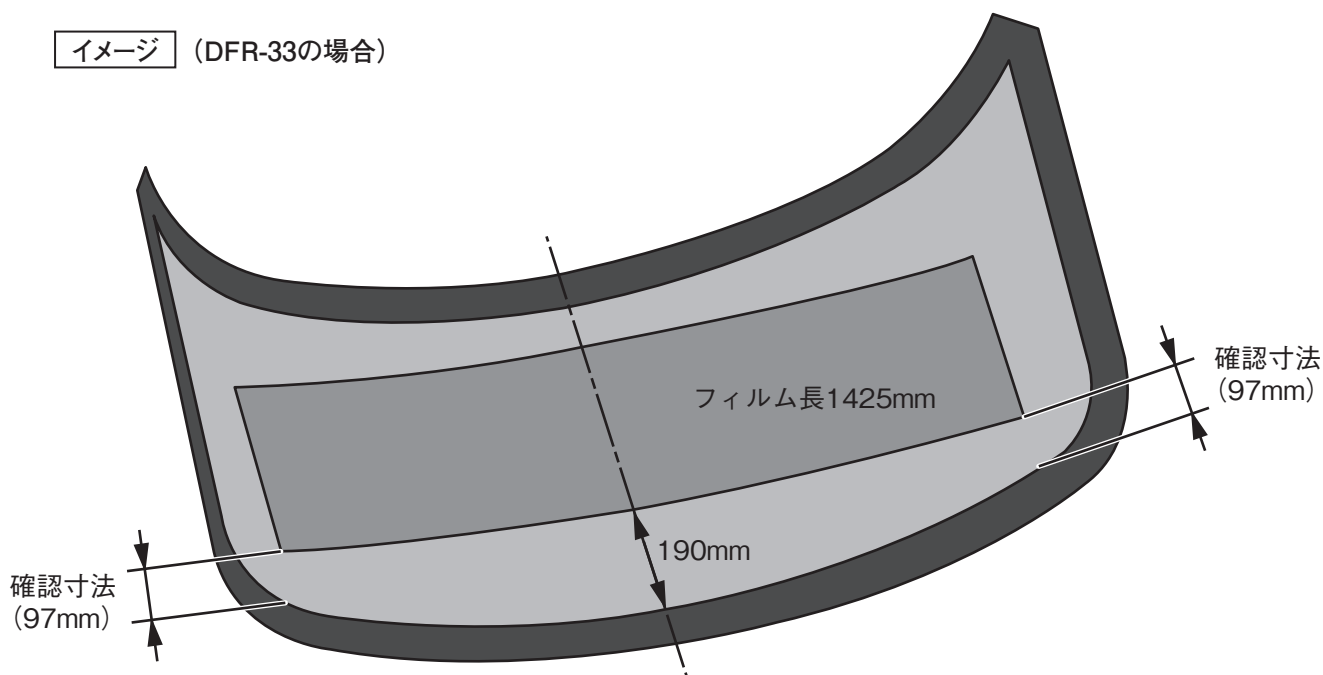
施 工 上 の 注 意 事 項

- 施工は一般のウインドフィルム同様、水貼りで行い、一定の知識が必要になります。フィルム業者による施工をお勧めします。
- 極力ホコリの立たない環境下や服装で施工してください。
- 保管期間が長いフィルムを使用する場合は、端面を切り落として使用してください。端面の接着力が弱くなっている場合があります。
- 水貼り施工のため、常温（15～30℃）で低い湿度（80%RH以下）を推奨します。
- 施工時には確実に水抜きを行い、施工後は低温、結露を避けるようにしてください。
- 保護ラミを剥がした後は、フィルム面を硬い布地やスキージなどで擦ると傷が付く可能性があります。
- 一度粘着したフィルムは再使用できません。新しいフィルムで施工してください。

施 工 前 の 確 認

- ヤマハ艇5艇種（DFR-36、DFR-33、YFR-27、YFR-24、S-QUALO）については貼り付け寸法をワイズギアHP（https://www.ysgear.co.jp/marine/interior_exterior/）に掲載しております。なお、この貼り付け寸法は参考となります。実際の施工では、主となる操船者に確認してください。
- 貼り付け位置基準は操船者を中心にワイパーふき取り範囲で上下左右を決めてください。
- フィルムが厚いため、フィルム自体は伸縮をしません。3次曲面に貼り付ける場合は、施工前に貼り付け可能な場所か実際にフィルムを当て、貼り付け位置、フィルムを決めてください。
- 艇種によっては、フィルムを貼ることにより外の景色が波打つ現象が発生する場合があります。施工前に残ったフィルムを使用しパッチテスト（小さい面積にて施工するテスト）にて確認することをお勧めします。

イメージ（DFR-33の場合）



施 工 手 順

防曇フィルム施工動画

施工手順につきましては動画もあわせてご覧ください。



① フィルムの準備

1. フィルムを必要な大きさにカットします。

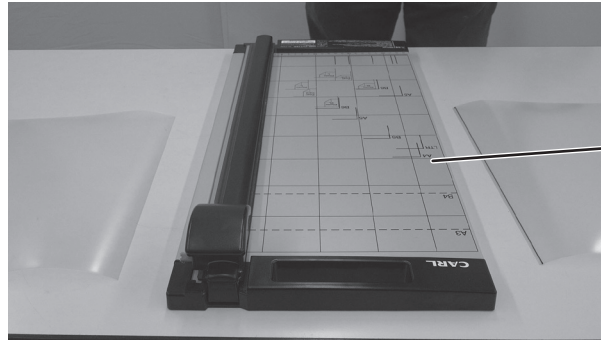
注意

被着体(ガラス)に貼り付けた状態では、カットをしないでください。被着体(ガラス)を傷付ける可能性があります。

要 点

フィルムの切断にはディスクカッター(図1)を使用すると簡単に切断ができます。刃が当たる側に保護ラミがくるように使用してください。

図1



ディスクカッター

② 貼り付け位置のマーキング

2. フィルムの保護ラミ側に貼り付けの基準となる位置をマーキングします。

3. 被着体(ガラス)に貼り付けの基準となる位置をマーキングします。

4. 被着体(ガラス)に中性洗剤※を噴霧し、セパレータ側(つや有側)を当ててマーキング位置を合せます。この時、セパレータは剥がさない状態です。

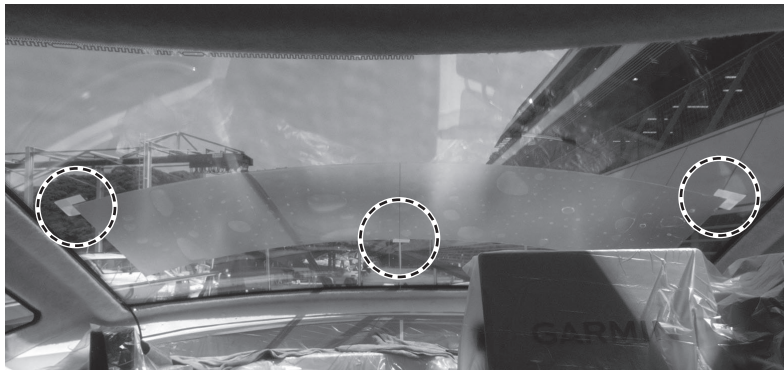
※参考：界面活性剤入り中性洗剤5～10ml/水5.0L(0.1～0.2%濃度)

要 点

濃度および噴霧量に関しては、環境によって異なります。作業しやすい濃度、噴霧量にて施工してください。

5. フィルムコーナーなどにマスキングテープなどでマーキングをします。(図2)

図2



③ 貼り付け面の洗浄

6. 一旦フィルムを外し、被着体(ガラス)に中性洗剤※を噴霧し、スポンジなどで洗浄します。洗浄後、水切りワイパーなどを使用し、洗浄した中性洗剤※を落とします。

要 点

洗浄に溶剤などは使用しないでください。水貼りに影響する可能性があります。使用した場合は、溶剤が残っていない状態にしてから、中性洗剤※で洗浄してください。

④ フィルムの貼り付け

7. 被着体(ガラス)の貼り付け位置に中性洗剤※を噴霧します。

8. フィルムのセパレータを剥がし、粘着剤側に中性洗剤※を噴霧します。

9. マーキングした位置にフィルムを合せます。

5 フィルムと被着体(ガラス)の間に残っている水泡と気泡を抜く

10. スキーまたはゴムヘラ(硬め)を使用して保護ラミの上から強くしごき、水泡と気泡を抜きます。

(1) フィルムの真ん中をしごき、水泡と気泡を抜き、フィルムを動かないようにします。(図3)

(2) 真ん中より端に向けて徐々にしごき、水泡と気泡を抜き、浮きのないようにします。(図4)

(3) 水泡、気泡やごみ入りを確認した場合は、その部分を剥がして水泡と気泡を抜き、ごみを除去します。場合によっては中性洗剤※を噴霧し、(2)の作業をやり直します。

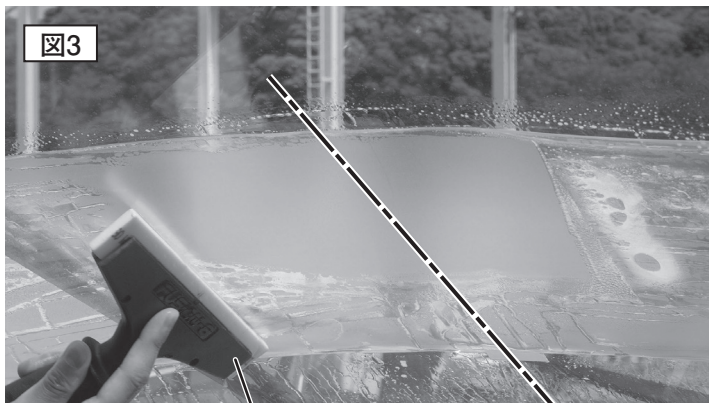
注意

(3)の作業にて修正できない場合は、手順6からやり直すかフィルムを交換してください。ドライヤーで加熱したり針などで孔を開けるなどの修正はしないでください。

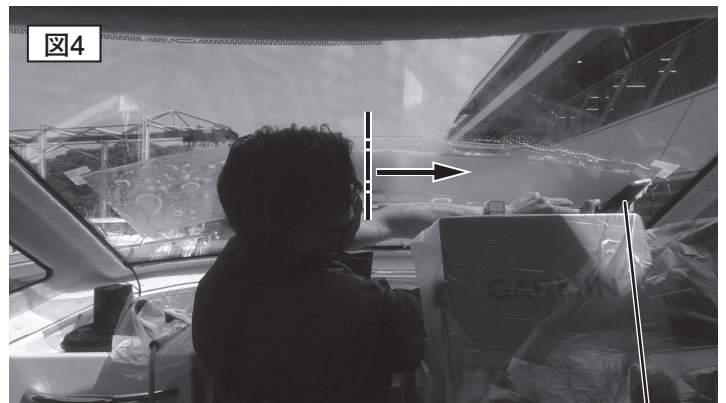
(4) 浮き、水泡、気泡、ごみ入りがいないか確認をします。

要点

スキーまたはゴムヘラなどでしごく場合は、保護ラミの上から実施してください。また、保護ラミに少しの中性洗剤※をかけて作業をするとスムーズにしごくことができます。



スキー



スキー

6 保護ラミを剥がす

11. フィルムを被着体(ガラス)に貼り終わったら、保護ラミを剥がさずに望ましくは6時間以上、最短でも1時間以上置いてから保護ラミを剥がしてください。(図5) この時間が短いと浮きなどが発生し、再施工になる場合があります。


図5



7 確認

12. フィルム内に水泡が残っていても経時変化で水泡が水抜けし、見えなくなる場合があるので、数日間様子を見ることをお勧めします。

●商品に関するお問い合わせ

株式会社ワイズギア  **0570-050814**
オープン特約 月曜～金曜(祝日、弊社所定の休日を除く)
9:30～12:00 13:00～17:00
◎一般の固定電話の場合、全国一律市内通話料でご利用いただけます。
◎IP電話や電話機の設定によってはご利用いただけません。
◎音声アナウンスに沿って担当部署をお選びください。

〒437-0061 静岡県袋井市久能3001-8 FAX. 0538-31-2101